

I B

アイ・ビー

2012年2月27日[月]No.1713

地域企業の繁栄をサポートする経営情報誌
企業特報 INFORMATION BANK

週2回(月・木曜日)発行 年間購読料157,500円
1996年4月10日 第三種郵便物認可 掲載記事二次転載不可

特集

住宅業界の

新潮流

一般社団法人福岡県木造住宅協会

地元住宅業界の活性化に期待
FBNが地場工務店へもたらす影響とは

(有)ゼムケンサービス 代表取締役 籠田 淳子 氏

住宅・建築業界の女性経営者
女性視点の強みを活かせる建築チーム



福岡に新たな展示場建設の動き
事前説明は大手からの矛盾

さらなる省エネへ向けて
これからの住宅市場を考える

群雄割拠の健食薬系事情

改正薬事法後の異業種参入も影響なし
さらなる成長目指すDgSの新たな挑戦

コリアントレンド

韓国の人気俳優や監督が勢ぞろい
日韓映像交流の新しい段階へ

情報S.I.C
SECRET
INFORMATION
IN COMPANY

老舗復活に期待

(株)喜多屋

止まらぬ減収で問われる存在価値

(株)県民百貨店

- 企業公告
- アラーム・ワンポイント情報
- モルグ・カンパニー(破綻情報)
- 裁判事件名記録 ■ TOPICS

住宅・建築業界の女性経営者 女性視点の強みを活かせる建築チーム

(有)ゼムケンサービス 代表取締役 籠田 淳子 氏

(有)ゼムケンサービスでは女性スタッフが主体となって、デザイン建築コンサルティング事業やVI・グラフィックデザイン事業、建物調査・内覧会立会事業や店舗デザインなど、多彩な事業を行なっている。同社代表取締役の籠田淳子氏は、常々女性の力で建設業界を元気にしたいと考えている。そして、そのために女性スタッフの力をどう活かし、どう育てていくかという、プロデュース的な想いを強く持っている。そんな籠田社長に、インタビューを行なった。

(聞き手：弊社住宅事業部リーダー・石崎 浩一郎)

COMPANY INFORMATION

代表：籠田 淳子

所在地：北九州市小倉北区片野3-7-4

創立：1993年8月

資本金：2,000万円

売上高：(11/7)1億4,385万円

URL：http://zmken.co.jp

女性の得意を活かした 建築チーム

——建設業界という「男社会」のイメージが強いですが、御社では女性が多いのはなぜでしょうか。

籠田 弊社には、本当にやる気のある女性が集まってきます。小さな会社ですが、一級建築士が3名、二級建築士2名、商業施設士、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーターと、複数の資格を持っているスタッフがいます。この厳しい時代ですが、今でも女性を

採用して、人材育成にもものすごく時間とお金かけています。無謀すぎますが、ある意味、今がチャンスだと思っていますから、人材面には力を入れています。

弊社の一番の得意分野は、女性視点があるということですね。私たちは、どちらかというと住宅メーカーになろうとはしていません。

私の父は大工で、ハゼモト建設(株)という地場の工務店を経営していました。私がハゼモト建設勤務時代、「話を聞いてくれるし、話しやすい、意味が通じる」など、現場でもお客さまからも重宝がっていただきました。その経験を活かして、お客さまの思いの部分私たち女性建築士デザイナーが聞いて、一本の線に落としていく。そこに関しては、とにかく100%お客さま満足度を追求していこうとしています。

工務店のデザインや設計の弱さを補助する意味で、建てる工務店とお客さまを取り持つ営業代行、コンサルティングなど、新しい事業を行なっています。

女性の持ち味が 発揮できる時代に

——女性と男性の違いというか、女性ならではの強みは何でしょうか。

籠田 女性の持ち味は、「おしゃべり」で「地獄耳」で「人との関係を大事にする」ことです。とてもまじめですし、建築基準法に関しても、丁寧に拾っていきます。将来の建物の維持管理の予算などを踏まえて、お客さまにわかりやすい言葉で説明しますし、「ここまで」というような細かなところまで落とし込みます。そうした意味でも、女性が携わった方が良いことが建築にはたくさんあり

ます。今後は、建設関係でも頑張る女性の方が増えてくると思っていますし、増やしていきたいと思っています。

私が一級建築士の資格試験を受けに行ったときは、まだ女性はほとんどいませんでした。また、ハゼモト建設時代は、現場などに行くとき常に珍しがられていました。しかし、時代は変わりました。建築や住宅には、もっともっと女性の良さを取り入れていかなければならないと思います。

——設計する際に心がけているのは、どのような点でしょうか。

籠田 お客さまにとって、思っていることを言葉にしたり、説明することは難しいと思います。また、逆に、建築的なことを聞かれてもわからないのは当然だと思います。

そこで、私たちがそのお客さまの家庭にお邪魔して、家族の雰囲気や生活スタイルを見させていただいたうえで、同時にどんな家族にしたいのか、細かいところを見たり聴いたり感じたりしていきます。どんな夫婦、どんな家族にしていきたいのかを何回も何回もやりとりすると、方向性が決まってきます。現場では、お客さまに替わって、お客さまの想いを私どもが言葉にしたり、説明したりするわけです。1人ひとり顔が違うように、生活スタイルも違いますから、家も当然違ってきます。家づくりは人生のステージづくりです。そういう意味で、すごく面白いですね。建築家の使命はそこにあります。

——スタッフはどのような構成になっていますか。

籠田 スタッフは、新卒も含めて23歳くらいから46歳くらいの独身から子育て中の人と幅広く、それぞれ家庭環境、生活スタイルが違いますね。そこが一番大切にしていると

ころで、それぞれの仕事の視点は、娘の視点、嫁の視点、お母さんの視点で見たりするなど、スタッフの生活スタイルがお客さまにどう活かされるか、どう図面に落とせるのかなど、その良さが出せていると思います。

今こそ成長のため 人材教育に力を

——人材の教育はどうされていますか。

籠田 私自身が、現場監督を通して職人さんからたくさんのことを教わりました。同時に、建築士の仕事だけではわからない、経理や総務の仕事など、全体の仕事の流れやみんなで助け合って仕事することを覚えました。ですから、スタッフにも設計という図面だけの世界にならないように、現場の仕事やチームとしての役割にも携わってもらっています。設計のレベルも上げていき、職人と打ち合わせをしながら、もっと良いものがあつたらそれを取り入れてやれるような、思いやりや知恵のある社員を育てたいです。ただ大学を出て頭が良いとかではなく、人間的な経験や魅力を持ち、お客さまからかわいがってもらえるような人材に育てていきたいと思っていますね。

——今後、会社として目指すところは何か。

籠田 日本一社会に期待される、女性設計デザイン監理チームをつくることです。まだまだこれからですが、今年には12名体制のチームでやっていきます。そのためにも、“女性力”を発揮してもらうために、育児や介護など家庭生活の段階において「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」が取れるよう、お互いをフォローして仕事ができるよ



(有)ゼムケンサービス 代表取締役 籠田 淳子 氏

うにしたいですね。

また、今後は法律に詳しい人、住設備に詳しい人、構造に詳しい人など、それぞれが専門分野を持ち、チームとしてさらに力強く仕事できるようにしていきます。そのために、2年前から「1人1営業1商品」を持たせるという社長方針を出しました。1人ひとりの商品はまだまだ成長段階なのですが、女性が表舞台に出られるように教育をしていきます。

さらに、女性ならではの設計ができるために、建築材料のプロデュースをしてみたいと思います。赤ちゃんや子どもにとって良いもの、家族の看病や介護に役立つ生活デザインをつくるなど、私の父母夫を看取った経験も活かしてやっていきたいと思っています。

——ありがとうございました。これまで、男性社会と思われていた建築・設計の分野で、女性ならではの温かみや、感性を活かした優しい家づくりの手伝いとして、これまでにない優しさに包まれたようなものが期待されますね。

(山下 理恵)